

来年は実戦の部で優勝したい

第2回全日本幼年ボクシング大会 演技の部 優勝

小原野々華さん



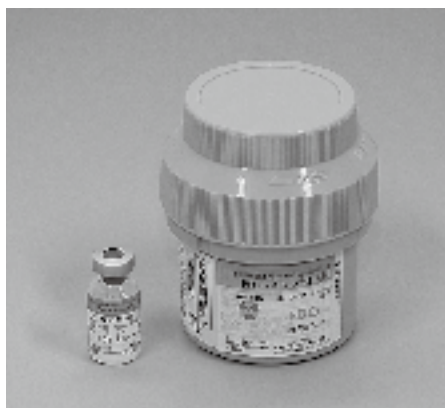
花巻市にある高原ボクシング教室(高原貞夫代表)に通う小原野々華さん(和賀西小5年)は、2月9日・10日の両日、兵庫県加古川市で行われた第2回全日本幼年ボクシング大会演技の部女子超軽量級に出場し見事優勝しました。同大会は、社団法人日本アマチュアボクシング連盟(JABF)が主催する小学5・6年生と中学生によるボクシング大会。演技競技と実戦競技があり、男女や体重で階級が分かれます。

演技の部では、腹筋や腕立て伏せなどの基礎体力、防御やフットワークなど基本技術が審査されます。「初めての大会で不安もあったけど、基本がきちんとできるように気を付けながら演技しました。優勝できてうれしかったです」と笑顔で話す小原さんは、弟のボクシングを見て面白そうと感じたことがきっかけで、小

学3年生からボクシングを始めました。週3日通う2時間の練習も「教室のみんなと友達になれたことうれしい」と楽しんでる様子。グローブを身に着け、身軽なフットワークを見せる練習風景は、まるでプロのボクサーさながら。父親でコーチの小原辰仁さんは「言ったことを素直に聞き、受け入れてくれる子。将来はオリンピックを目指すような選手になって欲しい」と話します。

小原さんに「目標の人を聞くと一人だけ目標にすると、その人のようになってしまおうので、たくさんの人を目標にしている」と話します。小原さんに「目標の人を聞くと一人だけ目標にすると、その人のようになってしまおうので、たくさんの人を目標にしている」と話します。小原さんに「目標の人を聞くと一人だけ目標にすると、その人のようになってしまおうので、たくさんの人を目標にしている」と話します。

Made In KITAKAMI  
き たかみ生まれ  
市内製造業の製品をご紹介します



1回の検査に使用する量は2ml。有効期限が短いので製造や出荷には気を遣います

放射性医薬品PET検査薬「FDGスキャン注」

日本メジフィジックス(株)が製造するFDGスキャン注は、がんの早期発見に有効なPET(Positron Emission Tomography)検査に使用する、放射性医薬品。がんなど悪性腫瘍が正常な細胞よりも多くのブドウ糖を必要とする性質に着目し、ブドウ糖にごく微量の放射線を放出するフッ素-18という元素を合わせた薬剤です。薬剤を注射し特殊なカメラで撮像するだけでがんの位置や大きさなどを詳しく調べることができ、受診者への放射線の影響もほとんどありません。PET検査薬をメーカーとして製造しているのは同社のみ。平成20年5月に出荷を開始した東北ラボからは、東北6県の約30の医療機関に供給しています。

日本メジフィジックス株式会社東北ラボ  
相去町山根梨の木43-131 ☎71-2500(代)



中央図書館 ☎ 63-3359 江釣子図書館 ☎ 77-2215 和賀図書館 ☎ 72-2322  
 中央図書館のホームページ <http://www.library-kitakami.jp/>

## 《3月の新着本から》

▼ 一般書	ガッツン!	伊集院 静
	地名は災害を警告する	遠藤 宏之
	必ず役立つ震災食	石川県栄養士会
	18歳の読書論 図書館長からのメッセージ	和田 渡
▼ 児童書	数学は無限を創る	リリアン・R.リーバー
	巨大恐竜ブラキオサウルス	せきぐち たかひろ
	ごんぎつね	新美 南吉
	工場見学! 学校にあるもの	中村 智彦
	ようこそぼくのおともだち	野中 柊
	ダヤンのめいろう	池田 あきこ
	妖怪一家の夏まつり	富安 陽子

## 《おすすめ新着本》

『クルマのすべてがわかる事典 2013』



青山 元男 / 著  
ナツメ社

種類から、ボディの構造、操作系計器類、動力源&駆動系、カーナビゲーションなどの快適装備、購入と維持管理まで、クルマに関するあらゆる情報を、豊富な写真などを交え、やさしく解説。

『工場の底力 3 不可能への挑戦』

かもがわ出版



高い技術で注目を集める中小工場と、そこで働く人々の姿を紹介。「工場の底力」をテーマに、さしても痛くない注射針で世界を驚かせた町工場や、世界一小さな歯車をつくる工場などを紹介。

## 《4月のイベント情報》

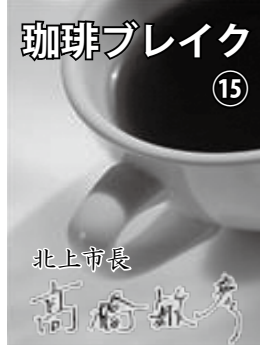
### ■おはなし会

4月14日(日) 午前11時~11時30分 中央図書館  
 4月21日(日) 午前11時~11時30分 江釣子図書館

### ■こども映画会

4月27日(土) 午前10時30分~11時30分 中央図書館

**国際リニアコライダー**  
 今、東北市長会を挙げて北上高地への誘致活動をしている国際リニアコライダー。皆さんも耳にしたことがあると思うが、約100kmの地下に全長30km以上の直線トンネルを掘って建設される大型実験研究施設で、物質の根源や宇宙の謎の解明が期待されているものだ。世界中から研究者やその家族など6千人が集まるといわれている。研究施設が設置されている間、北上市はどんなまちづくりをして彼らを迎えるべきであろうか。ぜひ、ご自分が研究者またはその家族になったつもりで一緒に考えていただきたい。



同様の施設であるスイス・ジュネーブのCERN(欧州原子核研究機構)周辺を見てみると、空港、鉄道の駅、高速道路のインターチェンジなどが揃っており、近くに市街地も広がっている。翻って岩手の場合、研究所は実験施設の都合によって位置が決まるにしても、住まいについては、空港や鉄道、高速道路などの交通の便や子どもたちの教育、休日の過ごし方が決め手になるのではないだろうか。決して地域から隔離された研究者だけの社会形成を望むものではないと思っている。しからば、北上市に足りないものはと考えると、子どもたちへの教育が少し心配である。必ずしも学力だけではなく、人格を形成していくための地域の教育力であろう。そのためには他言語によるコミュニケーション力など、今から一つ一つ準備にかかる必要がある。その一つとして、地域を含めた国際化に対応するためのチームを立ち上げ、まずは第一歩を踏み出したいと考えている。ちょうど来年開催されるマスターズ陸上アジア大会は、腕試しの絶好のチャンスである。私たちの国際コミュニケーションのセンスがこれから問われることになるのかも知れない。